

やましろ授業スタンダード 活用シリーズVol.3 まとめ編
どの子にも学びを実感させる「まとめ」チェックリスト

子どもの言葉で、まとめさせましたか。	☐
振り返りの視点を明確にしましたか。	☐
振り返りを共有する場を設定しましたか。	☐
時間内に振り返りまで終わりましたか。	☐
子どもの振り返りを確認して、授業改善につなげましたか。	☐

まとめ(自分の言葉でまとめさせる・学びを振り返らせる)の具体例 【小学校 理科】

自分の言葉でまとめさせる

はい

今日は、「ものが燃えるとき、酸素は、どんなはたらきをしているのだろうか。」というめあてで学習を進めてきました。今日の学習のまとめをしましょう。

共通するキーワードや方法の確認

今日のキーワードは、「酸素」と「はたらき」ですね。キーワードを使って、自分で考えて〇分間でまとめを書きましょう。早くできた人は、よりわかりやすくするために、図や絵も使ってまとめましょう。

意欲を高める
机間指導

「～さん、うまくまとめているね。」
「～さんは、絵と文章でまとめているんだね。」

選択した
方法での表現

どのようにまとめたか、隣の人と交流しましょう。交流して、いいと思ったことがあれば付け加えたり、変えたりしてもいいです。

ペアで交流

～さんは、根拠も入れて、うまくまとめています。みんなに発表してください。

酸素は、ものを燃やすはたらきをしていることがわかりました。酸素中では、空気中と比べて、ものが激しく燃えたからです。

パチパチ（拍手）

あたたかい学習集団
お互いを認め合える集団

それでは、みんなでまとめましょう。（板書）

学びを振り返らせる

机間指導で発表者
を見つける

では、今から〇分間で振り返りカードに記入しましょう。今日の振り返りの視点は、「新たに発見したこと」「疑問に思ったこと」「自分や友達のがんばり」の中から選びましょう。いくつ選んでもかまいません。

最後に〇人の振り返りを聞きましょう。

キャンプファイヤーの時、すき間を作って木を積んでいたのは、酸素を含んだ新しい空気を送り続けるためではないかと考えました。

ちっ素がたくさんふくまれているおかげで、空気中ではものがおだやかに燃えるんだと気付きました。



「やましろ授業スタンダード」は、「主体的・対話的で深い学び」を構築するためのエッセンスをまとめたものです。子どもの実態や教科・学習課題の特性によって、順序を入れ替えたり、ある部分を焦点化・重点化することもあります。また、単元を構想する際にも、活用できます。

授業改善 次の一手！ 主体的・対話的で深い学びの充実！

やましろ授業スタンダード

～やましろ未来っ子が輝くために～

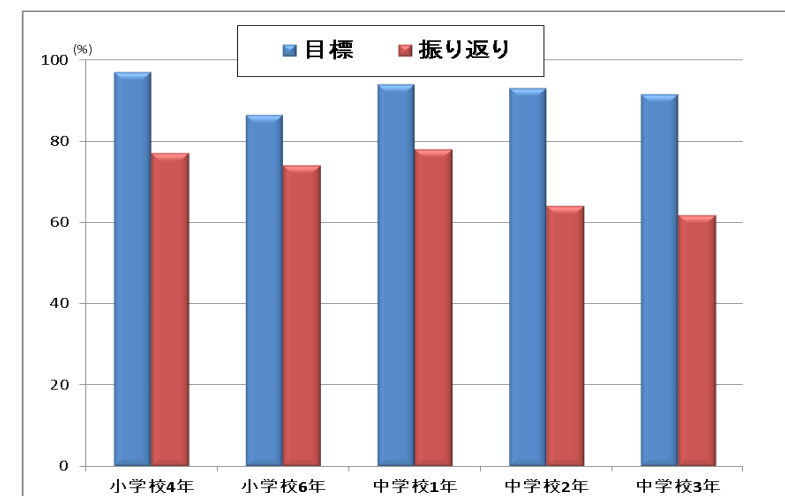
活用シリーズ Vol.3 まとめ編

6

7

「自分の言葉でまとめさせる！」って？
「学びを振り返らせる！」って？

「目標(めあて・ねらい)が示されていた」と
「学習内容を振り返る活動をよく行っていた」
山城教育局児童・生徒の様子
平成29年度「京都府学力診断テスト」、「全国学力・学習状況調査」質問紙調査より



「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の合計

山城教育局全体では、「目標(めあて・ねらい)が示されていた」と回答した割合は高くなっています。

しかし、「学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した割合は、「目標(めあて・ねらい)が示されていた」と回答した割合よりどの学年も低くなっています。

自分の学びを深め、実感できるよう、振り返りを授業の中に設定することが求められています。

どの子にも学びを実感させるためには、授業の終わりのまとめが鍵となります。

目の前にいる「やましろ未来っ子」が、自ら学び自らを高め、自然・人・社会とつながり、失敗を恐れず挑戦し続けるために、「主体的・対話的で深い学び」をより一層充実させる必要があります。

授業改善へのエッセンスをまとめた「やましろ授業スタンダード」を活用シリーズとしてリーフレットにまとめました。「活用シリーズVol.3 まとめ編」も、「やましろ授業スタンダード」「活用シリーズVol.1 導入編 Vol.2 展開編」とともに手元に置き、授業づくりに活用していただけることを願っております。

京都府山城教育局・山城地方学力向上対策会議

どの子にも学びを実感させる まとめ とは？

6 自分の言葉でまとめさせる！

わかったことを
表現・確認

理解した学習内容を自分なりの
表現でまとめさせましょう。

Q「自分の言葉でまとめさせる！」って？

A「自分の言葉でまとめさせる」とは、子ども自身が「めあて」に対して、解決したことを表現させることです。

自分の言葉でまとめることができるように授業の構成を工夫し、一人一人がまとめをする時間を確保しましょう。

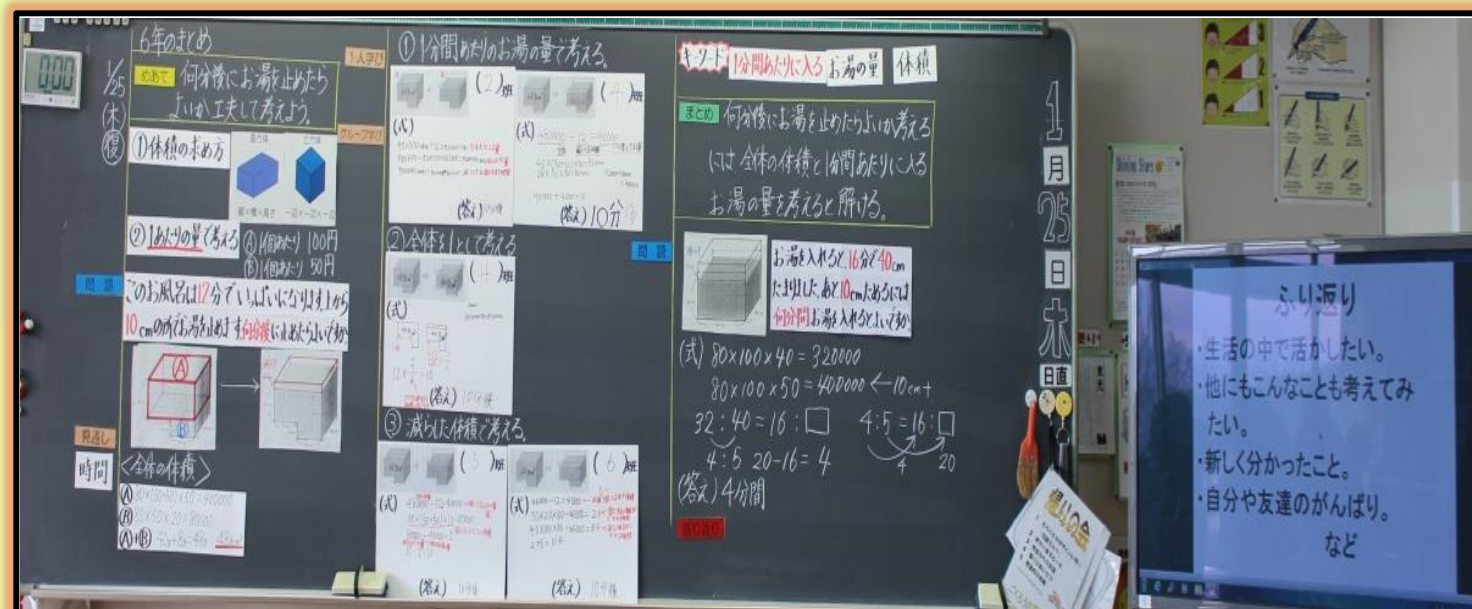
1時間で見開き2ページ

日時 めあて 自分の予想 友達の予想 実験方法	実験結果 わかったこと (自分のまとめ) わかったこと (みんなのまとめ) 振り返り
-------------------------------------	---

1時間の流れがわかる理科のノート例

なぜ、「わかったことを表現・確認」？

まとめは、その子の学びの成果です。まとめを自分の言葉で表現することで、学びを自分で確認し、達成感や成就感を味わうことができます。



目標の提示から振り返りまで整理された板書

7 学びを振り返らせる！

思考の変化を確認

振り返りの視点を与え、自分の学びを具体的に確認できるよう設定しましょう。

Q「学びを振り返らせる！」って？

A「学びを振り返らせる」とは、「めあて」にそって、自分自身がどのように学習して、まとめにたどり着いたのかを考えさせる活動です。

なぜ、「思考の変化を確認」？

自分自身の変容や学びの過程等を振り返ることで、自分を客観的に認識する力（メタ認知）をはぐくむことができます。

また、学びと生活・社会のつながりに気付くなど、次の学習への意欲となります。

・思考の変化に着目

（影響を受けた仲間の意見、次にやりたいこと、他の事象との関係等）

振り返りは、めあてに対する答えではなく、自分の気づきや考えの変化に着目させます。一人一人の振り返りを認め、評価することで、自分自身の学びや成長への気づきを促しましょう。

・振り返りカードの活用

振り返りの視点を明確にさせたり、振り返りへの見通しを持たせたりすることができます。また、記録を重ねることにより、学びの成長を実感させられます。

まとめ まで、確実にいきましょう。まとめ、振り返りといった授業のゴールまでを見通して授業を構成していくことが必要です。そして、振り返りを子ども同士で共有させましょう。また、子どもの振り返りをその後の授業改善に活かしていきましょう。（まとめと振り返りの目安は10分です。）



できるようになったことを伝え合う
(振り返りの共有)

「できるようになったこと」
「新たに発見したこと」
「わかりにくいところ」
「更に勉強したいこと」
「疑問に思ったこと」
「見通したことは正しかったか」
「生活とのつながり」
「自分や友達の頑張り」
「もっと知りたいこと」

振り返りの視点の例

リフレクションカード 教科(数 学)				
()年 名前()				
【勉強目標】しゃべる、質問する、説明する、動く、チームで協力する、チームに貢献する 【内容目標】授業の最初に提示します				
リフレクションカードの書き方				
1 勉強目標について振り返る(A, B, C)				
2 内容目標について振り返る(A, B, C)				
3 以下の項目について振り返る				
① 学びたいこと ② その他あれば ③ 小テストの結果				
月 日	1	2	3	小テスト結果

視点や書き方が明記された振り返りカード